

特集

ふしぎ発見! 弥生ワールド

～青谷上寺地遺跡と妻木晩田遺跡～

本格的な稲作が始まり、里山のふもとに水田が広がる農村の原風景が形づくられた弥生時代。鳥取県では、近年、弥生時代の暮らしに関わる新発見や調査研究成果が相次いでいます。そこで今回は、県内に数ある弥生時代の遺跡の中から鳥取県を代表する、「地下の弥生博物館」といわれる青谷上寺地遺跡、国内最大級の弥生集落である妻木晩田遺跡の調査成果を紹介します。

① ムラでの日々の営み

弥生時代の集落には、人々が住んだ竪穴住居のほか、貯蔵や生産、防御、祭祀などを行う様々な施設があります。妻木晩田遺跡では多数の竪穴住居跡や掘立柱建物跡が発見され、青谷上寺地遺跡でも様々な建築部材が大量に出土しています。また、米が主食となった弥生時代の人々のなりわいは稲作農耕が中心となりましたが、青谷上寺地遺跡で漁労具が多数出土したように、稲作以外にも海や山などの豊かな資源を利用して暮らしていました。

弥生人は米ばかりでなく、現代人と同様に肉や魚、木の実も食べて必要な栄養を補っていたんだよ!



妻木晩田遺跡 (西上空から)



土屋根の竪穴住居 (左)・屋根倉の掘立柱建物 (右) (妻木晩田遺跡)



農耕具 (青谷上寺地遺跡)



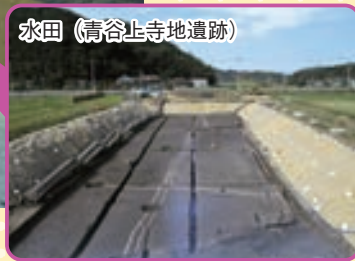
骨角器の漁労具 (青谷上寺地遺跡)



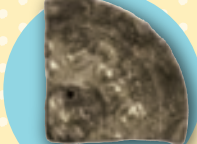
青谷上寺地遺跡 景観復原全景CG (北上空から)



水田 (青谷上寺地遺跡)



中国大陸・朝鮮半島製鉄器・青銅器 (青谷上寺地遺跡)



星雲文鏡 (破鏡)



貨泉



玉類とその製作道具 (青谷上寺地遺跡)

② 活発な交流と交易

弥生時代中期(紀元前2世紀)になると、日本列島各地で交流・交易が活発になりました。青谷上寺地遺跡や妻木晩田遺跡では中国大陸・朝鮮半島製の鉄器や青銅器など盛んな交流をうかがわせる貴重な舶載品が多数出土しています。一方、青谷上寺地遺跡からは玉類や木製容器などが各地に運び出されました。

青谷上寺地遺跡や妻木晩田遺跡を含む日本海沿岸では、様々な物資が地域間を行き交っていたんだよ!



交流・交易のイメージ



3 匠の技と高い美意識

弥生集落の人々は日用品や交易品として様々なものづくりをしていました。とりわけ青谷上寺地遺跡で造られた各種の製品には弥生人の技術水準と美意識の高さが表れています。その代表的なものが精巧な木製容器です。とくに花弁高杯と呼ばれる、花びら状の浮彫りがある高杯は交易品としても用いられたとみられます。

木製容器の造形美は、弥生文化が「木の文化」でもあったことを物語っているね！



花弁高杯復元品



櫛状骨角器
(青谷上寺地遺跡)



木製容器
(青谷上寺地遺跡)

まつりの道具
(青谷上寺地遺跡)



4 弥生のまつり

弥生時代の集落では豊作祈願や収穫などの農耕に関するまつりが行われ、全国各地で銅剣、銅鏡、銅鐸などの青銅器をはじめ様々な道具が使われました。弥生社会に政治的なまとまりが形成されると、有力者やその一族を埋葬する墓が造られるようになります。妻木晩田遺跡では山陰地方に特有な形の「四隅突出型墳丘墓」(平面四角形の四隅が突き出した形の墳丘墓)が見つかっています。これに伴い、まつりも墓での首長の埋葬の場が重視されるようになっていきました。

青谷上寺地遺跡では、占いに用いたト骨や朱色に塗られた木製の楯などまつりの道具が数多く発見されているよ！



四隅突出型墳丘墓 (妻木晩田遺跡)



5 弥生時代は激動の時代?

中国の歴史書『魏志』倭人伝には、弥生時代の終わり頃に日本列島(倭国)で大きな争乱があったと記されています。青谷上寺地遺跡では様々な武器や武具とともに人骨が大量に出土し、中には深い傷を負った人骨もあることから、激しい戦闘があったことがうかがえます。

各地の争乱は中国や朝鮮との交易をめぐる地域同士の争いと考えられ、「倭国大乱」と言われているよ。



人骨の出土状況 (青谷上寺地遺跡)



銅鐸が突き刺さった人骨
(青谷上寺地遺跡)

3月18日(土)に弥生時代の食をテーマにした「第1回とっとり弥生の王国シンポジウム」が開催されるよ！ぜひ、参加してね！詳しくはイベント情報欄へ！

